

VIVID LETTER

NO.5 2010/7/31

「ヴィヴィレター」

第5号

高次脳機能障害の赤裸々な体験を

マンガや絵を中心に描きました 1

VIVID 活動レポート 2

理事コラム 2

VIVID 事業カレンダー 3

ひとこと通信 3

会員の声・お知らせ 4

特定非営利活動法人 VIVID (ヴィヴィ)

東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル601

TEL&FAX 03-5849-4831

Eメール hbd-vivid@coast.ocn.ne.jp

HP <http://www.vivid.or.jp>

“VIVID”は高次脳機能障害者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

高次脳機能障害の赤裸々な体験を — マンガや絵を中心に描きました —

福元 はな

NPO 法人 VIVID を知りましたのは、昨年、発行本を取り寄せたのがキッカケでした。

それ以来、会報やセミナーの案内状を送っていただくようになり、活動の主旨や、また経験豊かな方々による電話相談窓口などがあることを知り、VIVID の存在をいつも、心強く感じております。

なお、高次脳機能障害の情報手段を新聞、TV、本に頼っている私どもにとりましてヴィヴィレターの会報は、とても重要な情報源として毎回興味深く拝読しております。

また昨年は、首都大学東京教授の渡邊修先生によるセミナーに参加させていただきましたが、会場一杯の沢山の方々が受講なさっていて、以前と違って高次脳機能障害の関心の高さを感じました。

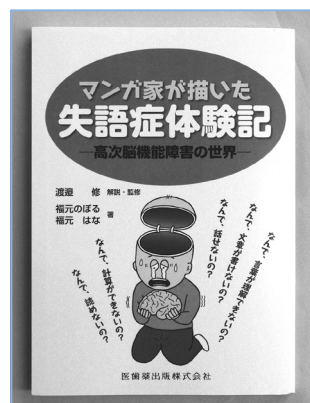
そのセミナー後に、夫が6～7年前から描きためていた原稿と、出版への思いを渡邊先生にお伝えしましたところ、出版社を紹介していただくことができました。

セミナーの案内状をいただいた VIVID、そして渡邊先生、出版社の方々のご支援、ご協力のお陰で、この度、念願の本を出版することができました。

2年間の出版社探しで疲れ、諦めかけたこともありましたが出会いや、ご縁に恵まれての出版で、改めまして感謝申し上げます。

ところで夫の職業はフリーのイラストレーターですが、51歳時の9年前に脳梗塞が原因で高次脳機能障害を発症してしまいました。

当時はまだ、外からは見えない高次脳機能障害の認知度



「マンガ家が描いた
失語症体験記」

— 高次脳機能障害の世界 —

福元 のぼる 著
はな

医歯薬出版株式会社

定価 2,000 円 (本体)
+ 消費税

も低く、また失語症という呼称での誤解は、今でも感じることがあります。

本の作成に当たっては、夫が言葉や文章で伝えられない思いなどを絵で描き、私が、その絵に夫との漢字の筆談と少ない言葉から、一つひとつ思いを聞き取り文章にしていきました。

内容は、発症前後から現在に至るまでの出来事や心の変化などを、漫画などの絵を中心にまとめましたが、文章が理解できない障害者の方でも、理解してもらえるのではないかと考えております。

夫以上に重い高次脳機能障害をおもちの方もいらして、一人ひとり症状も違いますが、情報交換も十分にはできない同病者同士、わずかでも、この本で悩みや辛さを分かち合えたらと考えております。

また、障害者である夫の赤裸々な体験を通して、少しでも高次脳機能障害の理解と普及の、お役に立てればと思っています。

発表会 — ミニデイサービス

2月27日（土）のミニデイサービスは、「発表会」として、利用者やご家族の方16名の参加者のほか、関係機関、友人、知人等15名の参加があり、いつものミニデイとは違った少し緊張した雰囲気で行われました。

内容は、音楽セッションとして、利用者全員で、これまでのミニデイで練習してきた曲の演奏と歌を成果として披露しました。また、ご家族の方のプログラムでは見学の

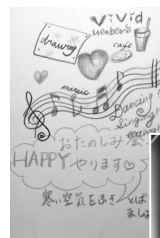


演奏会の様子

方も一緒に「心と体を自由にする」ゲームで身体を動かし、「みんなのトークショー」では、見学の方も参加し楽しい一時を

過ごしました。

会場の窓辺には、利用者やご家族の作品として、絵画、手芸品等の展示をし、コーナーには「VIVIDCAFÉ」として、お茶と利用者の手作りケーキを提供しました。



作品の一部



心と身体を
自由にするゲーム

専門職向けセミナーを開催しました

「地域で進めるあきらめない回復支援

高次脳機能障害におけるコミュニケーションの工夫」

7月17日（土）午後1時30分から4時まで、新宿区大久保地域センターで、新宿区協働事業 高次脳機能障害者の生活サポート事業の一つである普及啓発セミナーを実施しました。

テーマは「地域で進めるあきらめない回復支援 高次脳機能障害におけるコミュニケーションの工夫」、講師は、和田敏子氏（社会福祉法人世田谷ボランティア協会 ケアセンターふらっと施設長・高次脳機能障害専門相談員）。

セミナーの内容は、高次脳機能障害の概略、世田谷ボランティア協会ケアセンターふらっとの事業についての説明の後、コミュニケーションのポイントとしてパワーポイントを使って具体的事例について解説がありました。後半は

6つのグループに分かれて話し合い、「理解しやすいツール作り、共感と並行して人格の尊重、決定は当事者であること」等を学びました。

当日は梅雨明け後の厳しい暑さでしたが、33名の方が受講されました。参加者の声の一部を紹介します。

- ・非常に分かり易い内容、実践に裏づけられたお話しはとても参考になり、心に響きました。
- ・高次脳機能障害の方はケースにより全く異なるので、とても難しく日々壁にぶつかるので支援者や家族の心のケアも関心があります。
- ・年単位で長く経過をみることの大切さを学びました。
- ・グループに分かれての検討により講義が双方向に進むので参加意識がもてる。とても良い講義でした。
- ・土曜日の開催で受けられよかったです。VIVIDの活動のゆるやかな、やさしさを感じました。

理事 コラム

理事の一人である友人に誘われ、『私に出来ることがあるならば…』と。VIVID との出会い、そんなある日突然のことでした。それから約1年、VIVID 設立時からの理事の方々の熱い思いを日々肌で感じながら今に至っています。

土曜日の夕方、ミニデイを終えて家路へと自転車を走らせながら、朝よりも気力に満ちた自分がいることにいつも気が付きます。それは決して私が何かをしてきたからではなく、同じ時間、同じ空間を同じ目的で多くの方々と過ごしてきた、ただその満ち足りた思いのように思います。

ミニデイは高次脳機能障害の当事者、家族の居場所と

して三つの目標を掲げ、この目標に向って、毎回異なった工夫をこらしたプログラムを実施しています。私の生活から見れば非日常の一日のはずなのですが、ここで過ごす一日は特別ではなく、今は日常の生活感情と同じように感じています。

高次脳機能障害者とともに歩みながら社会的な自立の道を開いて行こうという VIVID の理念を考える時、私がミニデイで抱くこの思いも『ともに歩む』上での大切なものの一つなんだろうな…そんなことを独りつぶやきながら、これからの先の VIVID の活動に思いを馳せるこの頃です。

（北古賀 克美）

会員の声

(千葉県松戸市 酒井 えみ)

当事者や家族と多職種の医療福祉関係者が協働で作りに上げていくNPO法人だということと同級生達が立ち上げたことに、共感とあこがれのような思いを感じ、会員になりました。

当時地域包括支援センターで働いていた私は、高次脳機能障害の診断を受けた方と出会うことはあまりありませんでした。けれども、今年4月から病院の相談員になり、高次脳機能障害の診断を受けた患者さんに出会うことが多くなりました。

高次脳機能障害がある方で、介護保険の対象となる疾患が何かしらあれば、サービス利用の可能性があり、ホッとします。対象の疾患がないと、入所できる施設もなく、在宅サービスも何も利用できないことにもなります。「これでいいのか…」と思いつつも、身体障害者手帳が交付されるまで入院できないかと病院探しすることもありました。

しかし、ヴィヴィという相談できる会があることで、「難しい・わからない」と、安易に逃げがちになるようなことはできないぞ!」と思えます。また、医師の「周囲が困る状況なら、精神科で落ち着く薬を出してもらえないかな。」という説明に対して、「そうなの? 周囲の対応など環境をどう整えるかで、状況は変わるんじゃないかなあ。」と、考えてみるができます。

ヴィヴィがあることを、新米の医療相談員として心強く感じています。

VIVID からのお願い

VIVID では、私たちの活動趣旨に賛同し、会員、賛助会員、寄付者になっていただける方を募集しています。また、VIVID の活動につきましては、当広報紙のほか、ホームページもぜひご覧ください。アドレスは次の通りです。

<http://www.vivid.or.jp>

会員	91 名	(2010年7月末現在の 会員の状況)
賛助会員	25 名	
寄付(4～7月)	3 名 230,000 円	

年会費

会 員 個人 5,000円 団体 10,000円

賛助会員 個人 5,000円 団体 10,000円

寄 付 金額に規定はありません

当広報紙「VIVID LETTER」(ヴィヴィレター)をお読みになった感想、活動にたいするご要望、ご質問等お寄せください。「ひとこと通信」「会員の声」への投稿もお待ちしております。

TEL・FAX 03-5849-4831

お知らせ

VIVID 第3回通常総会の報告

2010年6月5日(土)午後2時から、VIVID 事務所で第3回通常総会を開催しました。

当日は、正会員64名のうち8名が、賛助会員1名が出席(委任状31名)し、議長に北村とし子氏、副議長に大屋敷剛康氏が選出され、議長進行のもと、1号議案から5号議案のすべての議案が承認されました。

1号議案である昨年度の事業活動報告は、課題として人材確保の充実、会員の増加等、また新宿区協働事業である、居場所づくり、相談、セミナー各事業報告がされました。

3号議案である今年度事業活動計画は、基本的には前年度事業が中心となりますが、相談事業の充実、新たに高齢者との交流会の実施などが審議され承認されました。

その他、5号議案では、役員の改選期に当たり理事、監事の提案をし、全員が承認されました。



編集後記

ヴィヴィレターは年2回発行のため、新鮮で、タイムリーな情報をお届けすることが難しい場合がありますが、定期的に発行し、確実に皆様へお届けすることの大切さを改めて感じています。法人設立から3年が経過、VIVID の行っている各事業、それぞれが関連し、相乗効果が上がっていることが少し見えてきました。

今号の一面に紹介しました「マンガ家が描いた失語症体験記—高次脳機能障害の世界—」は、少なからずVIVIDの事業とのきっかけがあって発行されたとのこと、福元様から贈られた当該の本とお手紙を読みとても嬉しく思うと同時に不思議な縁を感じました。

「当事者、ご家族の方と一緒に支援をつくり出していく」は法人設立の趣旨ですが、これからの活動も当初の志を忘れないで、一步前進するためにも継続性のある事業展開が何より必要と思っています。

まだお読みいただいていない方、ぜひお読みいただき感想をお寄せください。(あ)